

# カマタマ&アローズ拠点「ふれあいスポーツスクエアつるお」

# 愛称決定 親しんで



カマタマーレ讃岐の選手とミニゲームを楽しむ  
児童—高松市松並町、旧鶴尾中体育館

## 児童、選手と競技楽しむ

サッカーJ3のカマタマーレ讃岐とバスケットボールB2の香川ファイブアローズが拠点とする高松市松並町の旧鶴尾中学校施設の愛称が「ふれあいスポーツスクエアつるお」に決まった。体育館では鶴尾小の児童を招いたイベントが開かれ、子どもたちは両チームの選手たちとサッカーやバスケのミニゲームなどを楽しみ、競技の魅力に触れるとともに、愛称が決まった新拠点に親しんだ。

サッカーJ3のカマタマーレ讃岐とバスケットボールB2の香川ファイブアローズが提案した3候補の中から、同小3～6年生と地元コミュニティ協議会のメンバーの投票で決まった。イベントは1月30日であり、両クラブの社長と共に愛称を発表した大西市長は「市民とのふれあい拠点として、交流が広がってほしい。チームを身近に感じて応援してくれる人が増えれば」と期待を寄せた。イベントには同小3年生約20人が参加。カマタマーレの松原快晨、森本ヒマン

両選手やアローズの矢代雪次郎選手らと元気よくウオームアップを行った。  
サッカーのミニゲームで児童たちは、プロの巧みなドリブルに驚きながら、パスを受けて懸命にゴールを狙った。選手への質問タイムでは、アローズのアンガス・ブランド選手に英語で尋ねる児童もいた。バスケットの魅力を聞かれたブランド選手は「5人で協力して戦い、勝てたら楽しいから」と答えていた。